

2008年度

# 安全報告書



蔵王温泉スキー場

普通索道 蔵王スカイケーブル（通年運転）

特殊索道 蔵王パラダイスペアリフトA B線  
蔵王パラダイス第3ペアリフト  
ダイヤモンド第1ペアリフト  
ダイヤモンド第2ペアリフト

蔵王ライザスキー場

特殊索道 ライザペア リフト  
ライザペア リフト  
ライザエクスプレス

株式会社ヤマコー

## ご挨拶

日頃は蔵王温泉スキー場およびライザスキー場をご利用いただき、誠に有難く厚く御礼申し上げます。

さて、蔵王温泉スキー場は、世界的に有名な「樹氷原」での滑走、雪質抜群のパウダースノーのゲレンデ、そして、広大なゲレンデをつなぐ41基のロープウェイ・ケーブル・リフトなど、魅力いっぱいのスキー場であります。

その中で弊社索道は、樹氷原に近いパラダイス・コタンゲレンデ、初中級者およびファミリー客向きゲレンデのダイヤモンド・上の台ゲレンデで営業をしております。

また、夏期シーズンの蔵王スカイケーブルは、蔵王中央高原トレッキングおよび「ドッコ沼・不動滝」見学のアクセスとして、多くのお客様からご利用をいただいております。

ライザスキー場はファミリー向けスキー場として上山市、山形市など地元をはじめ山形県内はもとより隣県のお客様からも多くのご利用をいただいておりますが、一層のサービス向上および経営の効率化をめざし、本年12月よりグループ会社のヤマコーリゾート株式会社へ索道事業を譲渡いたしました。

そのような事業環境の中、索道事業者の最大の使命は「安全輸送の確保」であります。お客様を安全に、そして快適にご利用いただくため、日常の各種点検をはじめ、春季・秋季の定期整備点検の実施など、安全対策には万全を期しております。

また、お客様の快適な滑走のため、ゲレンデ整備の徹底、乗降車時の安全確認の励行など、再度お越しいただけることを念頭において業務に取り組んでおります。

本報告書は、2008年度一年間の安全に対する取組みおよび当社索道事業部の事業活動をまとめたものであります。「継続は力なり」と申します。安全に対する取組みは継続して行うものであり、気づいたところから「改善」を図り、安全を最優先する企業文化をつくるのが大切であります。

当社に対し、皆様から是非ご意見ご要望をお寄せくださることをお願い申し上げます。変わらぬご利用ご愛顧の程よろしくお願い申し上げます。



2009年6月吉日  
株式会社ヤマコー  
取締役社長 武田 吉則

## 1 安全基本方針と2008年度重点目標

### (1) 安全基本方針

当社ではグループ行動基準を定めております。安全・安心そして快適をキーワードに「地域社会への貢献」「顧客満足度の向上」「企業価値の高揚」の3つを掲げ業務に取り組んでおります。

中でも、安全に対する取組みは最優先事項であり、索道事業では次の4つの行動規範を掲げ、輸送の安全確保に努めております。

私たちは、一致団結して輸送の安全確保に努めます。

私たちは、輸送の安全に関する法令および安全管理規程をはじめ、関連する規程をよく理解するとともに、これを遵守し、厳正、忠実に職務を遂行します。

私たちは、常に輸送の安全の状況を把握し、職務の実施にあたっては、推測に頼らず確認の励行に努め、疑義のある時は、最も安全と思われる取扱いをします。

私たちは、事故・災害等が発生した時は、人命救助を最優先に行動し、すみやかに適切な処置をとります。

### (2) 2008年度重点目標

当社索道事業部では、例年冬期シーズン前に、職場内に設置している「安全衛生委員会」が主体となり、全従業員を対象に標語を募集し、安全に対する意識の高揚を図っております。夏期シーズンにおいても継続して実施し、安全の確保を最優先事項として業務に取り組んでおります。2008～2009の重点目標は下記の通りです。

「見る目 気づく目 注意の目 迫る危険は予告なし」

「お客様 あなたの笑顔で リピーター」

## 2 2008年度事故等発生状況

### (1) 索道運転事故(索道人身障害事故)

2008年度は1件の索道運転事故がありました。本年度は事故の絶無を期し、さらなる安全の確保に努めます。

### (2) 災害(地震・暴風雨・豪雪等)

災害による運転停止はありませんでした。ただし、安全確保のため、ケーブルおよび各リフトで強風・雷等の発生時に一時運転を見合わせた時間は、下記の通りです。

延べ日数 10日

延べ時間 66時間30分

(3) インシデント(事故の兆候)

2008年度のインシデントはありませんでした。引き続き安全への取組みを強化し、事故防止に努めます。

3 安全確保への取り組み

(1) 教育訓練

当社では、グループ行動基準を実現するためには、人材育成が重要と位置づけており、社内・社外講習には積極的に参加し、索道技術の習得・向上に努めております。

2008年度に受講した内容は下記の通りです。

(社内教育)

予備原動機取扱講習(蔵王)	6/5	11名受講
予備原動機取扱講習(蔵王)	11/21	18名受講
非常用発電機取扱訓練 (スカイケーブル)	1/7	4名参加
非常用発電機取扱訓練 (パラダイスリフト)	1/26	13名参加

(社外教育)

日本ケーブル技術研修	6/24 ~ 6/27	1名受講
山形地区部会技術研修	7/10 ~ 7/11	2名受講
索道技術管理員研修	9/2 ~ 9/3	3名受講
索道技術管理者研修	9/17	4名受講
雪上車安全運転と救急法講習	11/26 ~ 11/27	2名受講

(2) 救助訓練

当社では、冬期および夏期シーズンの営業運転開始前に、非常時を想定し、救助訓練を実施しております。

2008年度に実施した訓練は下記の通りです。

スカイケーブル救助訓練	6/5	11名参加
スカイケーブル救助訓練	11/21	18名参加
ダイヤモンドリフト救助訓練	11/21	6名参加
パラダイスリフト救助訓練	1/26	13名参加

### (3) 安全確保に伴う施策等

当社では、安全確保および設備の保全を目的に、毎年整備計画を立て実施しております。

2008年度に実施した主な整備は下記の通りです。

スカイケーブル主減速機解体検査	5月実施
スカイケーブル受索装置解体検査	5月実施
スカイケーブル握索機クリップ・ブロック交換工事	11月実施
パラダイスリフトサイリスタ冷却ファン軸受交換	7月実施
ライザリフト主電動機解体検査	8月実施

上記検査および工事等の他、スカイケーブルでは、例年春と秋に期間を定め定期整備を実施し、設備の維持管理の徹底を図っております。

春季定期整備 2008年5月7日～6月5日

秋季定期整備 2008年10月27日～11月22日

## 4 当社の安全管理体制

当社では、輸送の安全確保のため、安全管理体制の最終責任者を社長とし、以下、安全統括管理者、営業所所長、索道技術管理者および索道技術管理員を配置（別表1）しております。各々の役割・責任・権限は下記の通りです。

### (1) 役割・責任・権限

社長	: 輸送の安全確保に関する最終的な責任を負う。
安全統括管理者	: 索道事業全般の輸送の安全確保に関する業務を統括管理する。
営業所所長	: 安全統括管理者を補佐し、安全輸送の確保に関する業務をはじめ、労働災害、安全衛生管理等に関する業務を統括する。
索道技術管理者	: 安全統括管理者の指揮の下、索道の運行管理、索道施設の保守管理、その他技術上および係員教育等の事項に関する業務を統括する。
索道技術管理員	: 索道技術管理者の指揮の下、担当する索道の運行管理、索道施設の保守管理、その他技術上の事項に関する業務を管理する。

## 5 ご利用の皆様へ

当社では、索道事業者として、安全の確保は当然の義務であり責任であるという考えから、「安全管理規程」の制定後、まず取組を強化したことは、現場重視の姿勢であります。

次年度に向けた課題は、事故の絶無を期して、現場はもちろんであります。安全に対する意識のたかまりを全社・全グループで共有する仕組みを構築し、実行することです。

そのためには人材の育成が大切であり、社員教育および日々の業務を通じて「輸送の安全の確保」の重要性を強調してまいります。

## 6 ご連絡先

本報告書についてのご感想、当社へのご意見・ご要望は下記まで連絡くださるようお願い申し上げます。

〒990-2301 山形市蔵王温泉794  
株式会社ヤマコー 索道事業部  
(蔵王スカイケーブル)

TEL 023(694)9420

FAX 023(694)9106

E-mail [sky-c@yamako.co.jp](mailto:sky-c@yamako.co.jp)

## 7 ユトリアグループ行動基準

1. 私たちは、ひとつひとつの出会いを大切にし、豊かなくらしと魅力ある地域づくりに貢献します。

地域社会への貢献

2. 私たちは、お客様の声に耳を傾け、安心と満足を提供します。

顧客満足度の向上

3. 私たちは、時代の変化に適応し、未来に挑戦しつづけます。

企業価値の高揚

# 索道事業部安全管理体制組織図

平成20年4月1日現在

